



え と 文

奥 田 武 彦

恋 人

これは特定のモデルはいないが、存在するものから発想したイメージにもとづいて描いた、女のエスキースである。描いていくうちに、ますます昇華されていく女である。

逆にたどっていくと、女の裸とかエロチシズムに連なる。裸はよく好色的気分で考えられることがあるが、ここでいうエロチシズムとはあまり結びつかない。芸術には、エロチシズムの要素が欠けていると生きてこない面があり、生命をもたないものとなる。

そこで、このモデルのいない女が、沈黙するゆえに肥大した頭となり、萎縮した耳の底で独白する腫となっていることに、私は魅了されるのである。飼いならされた犬のように、人間としての影が薄くなってきた今日の状況の中にいるとき。

(女子大学職員)